

令和元年度第1回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時：令和元年7月30日（火）13時30分から15時00分

場 所：墨田区役所12階 121会議室

議事内容：1 開 会

2 福祉保健部長あいさつ

3 議事

（1）『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について
～平成30年度実績及び令和元年度計画～

（2）本年度策定予定の計画について

（仮称）墨田区子ども・子育て支援総合計画

（3）すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催の報告

4 閉 会

【配布資料】

- ・資料1 墨田区の福祉保健分野における計画の体系図と「第3次墨田区地域福祉計画」平成30年度実績・令和元年度計画（概要版）
- ・資料2 「第3次墨田区地域福祉計画」【後期】の平成30年度実績・令和元年度計画
- ・資料3 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」平成30年度実績・令和元年度計画（概要版）
- ・資料4 第9回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催の報告
- ・令和元年度墨田区地域福祉計画推進協議会委員名簿

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏名	所属	出席
山口 稔	関東学院大学教授	出席
鈴木 洋	墨田区医師会会長	欠席
浅野 智之	東京都本所歯科医師会会長	出席
白石 弘子	墨田区薬剤師会理事	出席
鎌形 由美子	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘司 康男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野原 健治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼田 典之	墨田区老人クラブ連合会会長	欠席
古市 吉弘	なりひらホーム施設長	出席
横山 信雄	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
栗田 陽	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
庄司 道子	墨田区男女共同参画推進委員会	欠席
石鍋 光子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	欠席
伊藤 林	個人ボランティア	出席
木村 幸雄	個人ボランティア	出席
井上 久子	録音グループかりん会長	出席
齊藤 宮子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外川 浩子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	欠席
後藤 隆宏	墨田区福祉保健部長	出席
岩佐 一郎	墨田区子ども・子育て支援部長	出席
伊津野 孝	墨田区保健衛生担当部長	出席
高橋 宏幸	墨田区保健衛生担当次長	出席
関口 芳正	墨田区地域力支援部長	出席

事務局

厚生課長 須藤 浩司
生活福祉課長 杉崎 和洋
障害者福祉課長 宮本 佳代子
介護保険課長 岩下 弘之
高齢者福祉課長 藤田 公德
福祉保健部副参事 澤田 敦子
子育て支援課長 田村 俊彦
厚生課 野澤、柴田、田部井、太田

【1】 新任委員の紹介

厚生課長から、浅野委員、人事異動により委員になった高橋委員の2名の新任委員を紹介した。

【2】 会長あいさつ

地域ベースでの福祉を展開するというのが、地域福祉であると思います。皆様に、地域でどのような変化がおきているのか、また、どのようなところに困っているのか、新しい動きがありましたら、お話していただきたいと思います。

議事

(1) 「墨田区地域福祉計画」の進捗状況報告について

●第3次墨田区地域福祉計画概要版について説明

- ・厚生課長から平成30年度及び令和元年度計画の概要について説明

●第3次墨田区地域福祉計画（後期）平成30年度実績・令和元年度計画の説明

- ・厚生課長から「あんしんバリアフリーマップの運営」について説明
- ・障害者福祉課長から「作業所等経営ネットワーク事業の充実」について説明
- ・生活福祉課長から「生活保護受給者自立支援プログラム」について説明
- ・福祉保健部副参事から「高齢者の見守り体制の充実」について説明
- ・社会福祉協議会事務局長から「災害ボランティアの活動体制の整備」、「市民後見人の育成・支援」について説明

【委員からの質問・ご意見】

○作業所等経営ネットワーク事業の内容について、作業所はどこにあるのか。

(会長)

⇒事務局はふれあいセンターにある。ネットワーク『K a i』に参加している21の団体があり、それぞれの作業所で製作されているものを生産品から商品にして売り出そうと取組みを進めているところである。(障害者福祉課長)

○あんしんバリアフリーマップについて、このようなマップを作る際は、現場を見るだけでなく、インタビューや話を聞くことが重要だと思う。(委員)

⇒意見を反映していくので、厚生課に連絡頂きたい。また、日々バリアフリー設備のある施設は変わってきているので、最新の状況を提供できるよう定期的に更新を行っている。(厚生課長)

○新しくできた自転車専用レーンだが、歩道にあり危険性を感じる。(委員)

⇒交通安全協議会のような、道路の部門を主管する会議があるため、このような意見があったことを伝えていきたいと思う。(厚生課長)

○地域には高齢者が多く若者がいない。そのため、実際に動けるボランティアがいない。災害ボランティアの活動体制の整備に関連して、中学生の災害ボランティアについては、どのようになっているのか。(委員)

⇒中学生に対して防災教育の一環として、救急救命講習を始めた。災害が起こった時、学校側は、中学生を保護する対象としている。保護し安全を確保した上で、条件が整った際にどこまでできるかということになる。地域や学校に防災教育を積み重ね、条件が整えば後方支援などで、災害ボランティアの活動を行えるのではと考えられる。(委員)

○市民後見人の育成支援は、どのように進んでいるのか。(会長)

⇒市民後見人の養成研修を区と連携して毎年実施し、市民後見人の候補者も着実に増加している。これに伴い受任件数も伸びてきている。しかしながら、現状でも市民後見人の選任件数の割合は低く、今後高齢化が更に進み認知症の方が多くなると、今以上にニーズが高まっていくことが予想されるため、市民後見人の養成を着実に進めていく必要がある。

一方、複雑な状況の被後見人の場合、市民後見人が家庭裁判所から選任されないこともある。そのため、こうした場合の受け皿として、社会福祉協議会が法人として後見人となる制度を令和元年度より開始した。こうした取り組みを進めることで、判断能力が低下してしまった区民の方々の生活や財産の保護を行っていききたい。(委員)

○生活困窮者自立支援事業について、3名の方の相談員が配置されたということだが、その経緯を教えてほしい。学習支援は、学校と連携しているのか、それとも単独で行っているのか。(会長)

⇒問題の複雑さや困難さを鑑みて社会福祉士の資格を持った相談員を配置した。昨年までは区の職員が相談員であったが、事業委託を行った。学習支援については、学校とは連携していない。昨年は、中学3年生12名が学習支援を利用して、高校に進学することができた。(生活福祉課長)

○高齢者の見守りで、社会福祉事業団で行っている特徴的なことがあれば教えて欲しい。(会長)

⇒社会福祉事業団では、こうめ高齢者総合支援センターと、うめわか高齢者支援センターがある。事業として、小梅では本所高校と積極的に交流を行っている。梅若では、災害についての意識が高いため、民生委員や町会とともに防災対策、啓発活動を進めている。(委員)

(2) 本年度策定予定の計画について

子育て支援課長より、墨田区次世代育成支援行動計画、墨田区子ども・子育て支援事業計画について、本年度策定予定の計画及び平成30年度実績・令和元年度計画を説明

【委員からの質問・ご意見】

○待機児童についてはどのように解消されたのか。タワーマンション等が建設されているなかで、今後の見通しはどうか。学童や子育てひろば、小学校といった機関との関係を考慮して、総合計画を策定するのか。(副会長)

⇒平成31年4月1日時点で83名の待機児童が発生しているが、昨年度に比べると減少しており、保育所整備に力を入れて待機児童の解消に努めている。

墨田区においても転入者の増加が見受けられるので、人口推計の動向を注視し事業計画を策定する必要がある。保育だけでなく、学童や教育分野についても一連の関連した計画として策定を進めていく。子ども子育て会議の委員には、学校長やPTAからも出ていただいている。保育だけに特化せず、多面的、多角的な視点で計画を策定する。(子育て支援課長)

○小学校の教室が足りなくなると予測されていることについて、現状で間に合うのか。(委員)

⇒教育委員会では人口推計を見ながら、入学手続きの際に教室が足りなくならないように調整している。また、空き教室を学童クラブで利用する事例もあり、教育委員会と調整しながら、教室が足りなくならないようにしている。(委員)

(3) すみだ・地域福祉ボランティアフォーラム開催の報告について

資料4を用い、厚生課からすみだ・地域福祉ボランティアフォーラムについて説明

【委員からの質問・ご意見】

○今年は第9回目で、「思いを伝える」をテーマにして講演や分科会を行った。参加者も多数おり、皆様の満足度も高かったと感じる。講演は、災害ボランティアの事例や介護ヘルパーの事例などとてもわかりやすく、有意義であった。(委員)

○外国の方が増えているなかで、コミュニケーションがとても難しく感じる。「声がけ」がコミュニケーションの基本で重要なことであると感じる。(委員)

○約200名の方の参加をいただき、満足度は高かったと感じる。ボランティアフォーラムは、現在活動されているボランティアの参加だけでなく、活動をされていない方にもボランティアなどに対する理解を深めていただき、今後、ボランティア活動をしていただく趣旨もある。

実際の参加者は、ボランティア活動をしている方の参加が多かった。今までボランティア活動をしたことのない方にも、いかに足を運んでいただけるようにするか、検討が必要だと思う。(委員)

○お互いの活動について報告や意見交換など、活発に行える場である。ボランティア活動をしていない方へ、ボランティアを促すような説明があると良いと感じる。また、高齢者施設にはボランティアの方が多くいるが、それ以外の場所でも活動している人

がたくさんいることが分かった。地域でできるボランティアについて、アピールが大切だと思う。(委員)

○告知方法についてはどのようなことをしたのか。(委員)

⇒区報、墨田区ホームページ、町会掲示板、社協だより等で告知した。(事務局)

【まとめ】(副会長より)

資料でキーワードになりそうなところを確認すると、情報の共有、交流、住民同士の見守り、つなぐ、プラットフォームなどが挙げられ、これらを総合して考えると「コミュニケーション」のことだと思う。ボランティアフォーラムも「こころを伝え合う」や「コミュニケーション」がテーマになっていたのでキーワードは共通していると感じた。

コミュニケーションが挙げられた背景を考えると、地域福祉の活動を進めるうえで、区民やボランティアなど多様な関係者が携わっていることが挙げられる。支援する側についても、ボランティア経験がなかったり、経験はあるが浅かったりと色々で、支援する側、される側双方が、様々な不安や不信などを抱えているといえる。

災害ボランティアについても、「災害の現場で困っている人の話を聞く」とあったが、ニーズを持っている人を把握するためにも、やはり、コミュニケーションが必要となる。こういったことが、地域福祉におけるコミュニケーションという言葉の背景にある。

以上のことから、地域福祉の活動や実践は、コミュニケーションから出発するのではないかと考えるが、コミュニケーションは手段であり、支援する側、される側双方の互いの信頼関係の構築が目的となる。

本計画書を見ると、「支援する」という言葉は出てくるが、支援やサービスについて、「求める」や「受け入れる」といった、支援される側の視点がもう少し出てくると良いと感じる。地域福祉計画については、児童、障害者、高齢者、貧困等について総合的、横断的に計画を策定することが求められる。